

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091500019		
法人名	有限会社 ふれあい		
事業所名	グループホーム ふれあい		
所在地	〒837-0916 福岡県大牟田市大字田隈766番地5		TEL0944-41-8210
自己評価作成日	平成23年05月01日	評価結果確定日	平成23年06月06日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27		TEL 093-582-0294
訪問調査日	平成 23年05月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆっくりとした生活の中で安心と安全を基本とし、利用者の希望に応じた支援を行っている。又、家族参加の行事を取り入れながら家族との繋がりも含め、馴染みの関係の継続にも努めている。本人と家族の希望に応じて、24時間訪問医療との連携を行い、最後の時まで支援の継続が出来るよう職員の教育に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR銀水駅近くの文教地区の中に、4階建ての病院を改築し、高齢者ホーム併設のグループホーム「ふれあい」がある。管理者と職員は、「笑顔、真心、思いやり、目配り、気配り、心配り」を目標に掲げ、利用者一人ひとりの目線に立って、状況に合わせた支援は、利用者や職員の心を結び付け、安全で、楽しい暮らしぶりである。代表の誰でも受け入れる広い心が、福祉事業に活かされ、地域との交流は、活発で、そうめん流し、秋祭り、餅つき等には、家族や地域住民の参加が多く、交流の輪が広がっている。また、永年勤続のベテラン職員が多く、利用者や家族の関係を築き、ホームに対する家族の信頼は深いものがある。特に、2ヶ月毎に開催する運営推進会議には、地域の方や家族の参加が多く、地域密着型グループホームとして、今後の展開が期待されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念をもとに理念の重要性を学ぶため勉強会を行い各職員の理念をもつことの大切さも伝えている。	職員全員で考えた「生活の和、尊厳の私、地域の輪、みんなの話、幸せの笑」の五つの‘わ’を理念の柱とし、管理者と職員は、笑顔と真心、おもいやりの気持ちで理念に基づいた介護サービスが提供できるよう日々努力している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域行事への参加や近隣の薬局やお店に立ち寄り、買い物や外食等、外に出かける事を心掛けている。又、ふれあい行事に地域住民の参加もあり、交流に努めている。	地域に根付いたグループホームを目指すために、地域の行事への積極的な参加、日常の散歩や買い物時の挨拶を心がけている。ホーム行事の、そうめん流し、餅つき大会、秋祭りには、大勢の地域の方や家族の参加があり、活発な交流が行われている。特に、秋祭りで振舞われる、「鮎の炭火焼」は大好評である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事には地域住民の参加を呼びかけ、利用者様の様子や支援、声掛け等を身近で感じていただいたり、運営推進会議において利用者様の状況報告も行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域役員の方から、公民館や学校行事へのお誘いがあり、地域参加のかけ橋になっていただく事で、地域との交流がスムーズに出来るようになった。	会議は二ヶ月毎に開催し、家族会代表、地域の役員四名、民生委員、行政職員、地域包括支援センター職員の参加がある。委員からの質問や情報、提案などを積極的に出してもらい、ホーム運営に反映できるよう職員一同努力を重ねている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所における問題点等の相談を受けたり、あんしん介護員の受け入れを行っており、年に2回行政を交えての意見交換会に参加している。	ホームの行事に行政職員と地域包括支援センター職員の参加がある。また、年2回、意見交換会に参加し、介護保険に関する情報や、事業所の課題など、多様な意見交換の場として、行政と連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等において、身体拘束についての理解に努め、どうしても必要な場合には、ご家族様への説明を行い、同意を求めている。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、勉強会を行い、管理者と職員は、身体拘束が利用者にもたらす弊害を理解し、拘束のないケアを実践している。また、本人の安全確保のため、どうしても必要な場合は、家族の承諾をとり、期間を限定してベッド柵をつけることもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い精神的、経済的、虐待等の理解を深め、日頃のケアから言葉の虐待やネグレクトについて日常的に話を行っている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権等の勉強会を行い、日頃のケアにおいても、権利擁護に対する意識を高めると共に、現在入居されている利用者様に対して、後見人の活用を検討している。	制度の理解を深めるため、職員は、外部研修会に参加し、内部の勉強会で知識の共有に努め、理解し、利用者や家族が必要な時、いつでも説明し、橋渡しする体制がある。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所側の説明を行うと共にご家族様の要望も取り入れ、必要な場合は家族支援も行うよう心がけている。	
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の出席があり、その際に意見を聞く時間を設け、又家族会や面会時に要望などないか尋ねるようにしている	ホーム行事を兼ねた家族会を年4回開催し、運営推進会議に家族代表が参加し、家族の悩みや心配事、要望などを自由に発言できる機会を設けている。出された意見は、運営に反映できるよう努め、家族と事業所の信頼関係に繋げている。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度主任者会議を開催し、入居者様の状況報告を行ったり、意見交換の場を設けている。	職員会議は、勉強会と合わせて毎月開催している。管理者は、日頃から職員に声かけし、意見や要望を聞くよう心がけ、出来るだけ反映できるよう努力をしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から職員に声かけを行い、必要時にはその都度対応をしている。又、処遇改善交付金の申請を行い給与面の充実も図っている。	
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用において、年齢、性別を問わず定年もなく、やる気のある方に対しては、無資格の方も採用し、職員の力量を考慮し、得意分野においては、ケアに活かせるように配慮している。	幅広い年齢層の職員を採用し、仕事に対する情熱をいつまでも絶やさないために、職員のやる気や特技を支援する様々な工夫をしている。資格取得への支援や勤務ローテーションへの配慮など、働きやすく楽しい職場環境を目指している。
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権等の勉強会を行い、日頃のケアにおいて、人権に関する判断等が必要な場合は、ご家族の方と相談後、その結果と今後については必ず職員に報告するようにしている	外部の人権研修に職員が参加し、内部の勉強会で職員全員が共有し、利用者の人権を尊重する取り組みと、啓発活動に繋げている。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会に登録しており一年を通して計画されている研修には出来るだけ出席し又、市内の研修及び、病院等における研修も参加できるように必ず研修案内を回覧し参加を呼び掛けている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域参加の行事にお誘いしたり、他の事業所へ職員研修をお願いするなど、日頃から交流を心掛け、又、年に2回行政と他事業所の意見交換の場に出席している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームを利用するにあたって、今までの暮らしの継続に努め自宅で大切にされていた家具の持ち込みを希望し、入居後はできるだけたくさんの方に面会に来ていただくよう声掛けを行っている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御本人様やご家族様の要望を聞き入れ、今後の生活に不安が強い方に対しては、ホーム見学の際に利用前に聴き取りを行い、必要な場合は家族支援も行っている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護計画作成においてご本人様からの聴き取りを行い、希望を取り入れ、又、ご家族の意見も尋ね「今」を大切にしたい支援の取り組みを心掛けている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩であるので、お尋ねすることは多々ある中で漬物をつける時などは経験者は語るっといった感じで手際よく行われる場面がみられます		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人支援にあたって、家族の存在の大きさを利用者様に感じていただくためにも、病院受診は出来るだけご家族様をお願いしたり、同行の働きかけを行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族関係の継続のみならず、友人や知人との継続した関係の支援を行っている。 又、センター方式A-4・B-1を利用し本人の馴染みの場所や大切にしてきた人・ものについての聴き取りを行い実践している。	利用者を訪ねて友人や知人がホームを訪れ、居室で親しく懇談したり、お茶を飲んだりして楽しいひと時を過ごしている。また、職員は、利用者の行きたい所などを把握し、家族と相談して支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活において、居間で過ごされる方が多く家事を一緒に行ったり、うたた寝をされている方にはひざ掛けをかけてあげられたり、日頃からお互いを支え合っておられる場面がみられる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への入院がある場合は、家族の了解をいただき引き続き面会を行うようにしている。又、入院後も今後の相談を受けたり、できるだけ最後まで経過を見届けられるよう心掛けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望する暮らしを継続するため、日頃から会話を大切にしており、その中から希望を聴き取り、本人を中心とした支援に努め、その場、その場に応じたケアを行っている	勤続年数の長い職員が多く、利用者との関係であり、毎日しっかり利用者へ寄り添い、思いや意向を把握するように努めている。意向の表出の難しい利用者に対しては、履歴や、家族からの情報などから汲み取り、今一番望んでいることに対して、優しく支援をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の情報収集は、本人のみならず、家族や親族・友人への聴き取りを行い、医療機関からの利用者に対しては、入院中での状況を担当看護師に尋ね、本人理解を深めるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日によってその方にあった暮らしをスタッフが見極め、家事の声掛けを行ったり、場合によっては声掛けせず休んでいただいたりしながら、本人本位の支援に努めている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者を決め、他の職員や利用者様に参加していただき担当者会議において、よりよい支援や目標を話し合い、又ご家族様へも聴き取りを行いその時に応じた計画を作成している	介護計画は、毎月モニタリングを行い、見直しを図り、長期、短期の目標を掲げ、作成をしている。また、利用者の状態変化があれば、その都度介護計画の見直しを行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践した内容の状況や様子を発せられる言葉を大切に記録を行い、日中、夜間、医療と見やすく色分けしたうえで、目標やサービス内容の見直しに努めている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活において、今何を希望されているかを尋ねるようにし、家族の面会時に状況報告を行うと共に希望を尋ねたりしながら、出来るだけ希望に添えられるよう、日頃の思いをケアに取り入れるよう心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物を中心になっていますが、買い物に出かける時は自らお金を持ち、購入される物は自分で選ばれ、支払いも自分で行われます。又外出の際は1対1の関係を心掛けています		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望する医療機関との継続に努めている。往診の方は、1～2週間に1回来ていただき、受診の際は、家族対応が無理な場合は職員で対応し、その都度報告を行っている	入居前からの、馴染みのかかりつけ医の受診を希望する利用者、家族の要望に応え、協力体制を築いている。また、ホーム提携医による往診など、利用者が安心して適切な医療を受けることが出来るよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の生活において、変化がみられた時は小さな事でもかかりつけ医へ報告を行い大事に至らないよう早めの受診を心がけている。又定期的な健康診断も受けている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院されたときは、必ず面会に行き、状況把握を行いながら早期退院に努めている。また、入院の際には、本人の生活情報を医療機関に伝えるようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては家族と話し合いを行う中で希望時には24時間体制の医療機関を利用し本人中心のケアに努める。又、ホームとしてできることの情報提供を行い、前向きな終末期ケアが出来るよう心掛けている	重度化、終末期に向けて、本人、家族と繰り返し話し合い、ホームとして出来ること、出来ないことを提示しつつ、出来る限り、本人、家族の希望に添えるよう取り組んでいる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応のマニュアルを用意しているが、定期的な訓練などは行っておらず、その時に応じた対応を指示しながら急変時に備えている		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回春と秋に防災訓練を実施し、春の実施時には地域や消防局と協力して行うようにしており、本年度においては家族会の方への参加を呼び掛けている	消防署の指導による昼夜を想定した避難訓練を、地域住民、家族の参加を得て、併設事業所との協力体制を確認しながら実施している。	非常災害時において、電気、水道、ガスが使用不可能を想定し、安全で簡単に食べられる非常食、飲料水、毛布などの備蓄が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアにおいて言葉づかいには十分気を付け、利用者様の「出来ること」に視点をおくようにしている	利用者の尊厳を守り、利用者本位のケアを心がけ、「目配り、気配り、心配り」で、さりげない言葉かけや対応をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援についての選択はスタッフが決めるのではなく、利用者様に決定権をもっていただけのような言葉かけを行っている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に添った暮らしの中で、利用者様の希望に応じたケアを心掛け、場合によっては業務を中断し支援を優先している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常においては朝の洗面後にクリームをつけたり、外出や催しの際には薄くお化粧をし、男性は日頃から髭剃り等の整容を心掛け、外出時には好みの帽子着用で出かけられる		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の趣向を理解し、メニューに出にくい刺身は買い物や外食で対応し、アルコールはかかりつけ医と相談し量と回数を決め、楽しい食事が出来るようにしている。準備等においては、無理のない程度でお手伝いの声掛けを行っている	利用者と職員が会話しながら、同じテーブルで同じものを美味しく食べる光景は和やかである。また、食後の後片付け、楽しい団欒は、利用者の楽しみの一つである。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様のその日の状態に合わせて食事を提供し趣向を把握したうえで、できるだけ好物のものを提供する事を心掛けている。又、水分量の把握も行いその時に応じて摂取量の確保に努めている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立できている方には声掛けや見守りを行い、介助が必要な方に対しては介助前に同意の確認を行い、何らかの訴えや異常が確認された時には歯科往診時に診てもらおうようにしている		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ使用を減らすように心がけているが、利用者様の声として、はくパンツを使用していることで安心だという話があり無理強いをしないでご本人に合わせた支援を心掛けている	利用者の、排泄チェック表で一人ひとりのパターンを把握し、さりげない声かけや見守りで排泄の、自立に向けた支援をしている。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢の方が多く、運動の働きかけが難しいので、食事や水分摂取を心がけながら、内服薬の処方も合わせて便秘の改善に取り組んでいる	
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日出来るよう準備している。本人の希望を聞き入れ、一度断りがあっても時間を置き、再度声掛けを行うことで入浴されるなど、その場その場に合わせた対応を行っている。	利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、いつでも入浴が出来る体制を整えている。入浴を拒まれる利用者に対しては、対応する職員やタイミングを変えたりして誘っているが、無理強いせず、清拭などで対応している。
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の管理に努め、疲れた時や眠たくなった時に休まれるような声掛けを行い、寝具も清潔に保ち、入眠される時は安心していただくような声掛けを行っている	
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については看護師が把握し、その時に応じてかかりつけ医と相談し必要のないものなどにも相談に応じていただいたりしながら、身体の変化があった時はすぐにかかりつけ医へ報告をしている	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の人生史・生活習慣を理解し、喜びがある生活が出来るように本人理解を深めている。 又、本人資源の活用に努めている。	
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の体調や、その日の天候や気温に応じて希望に添った外出を心掛けている。 又、遠出の際には、ご家族の方へ連絡し、一緒に出掛けられるような行事を予定している。	利用者の行きたい所を職員が聞き出し、家族の協力を得て、買い物、ドライブ、外食、散歩など、出来るだけ戸外に出かける努力をしている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持されている方は、買い物に行く時は、財布を持ち出かけられる。 その他の利用者には家族より預かっていることで、いつでも使えることを伝えている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある場合は、職員が対応し、相手方が出られてから本人に代わるようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感に関しては、季節の花を生けたり、行事等の飾りつけなどで楽しんでいただけるよう工夫している。	4階建てのビルの2階部分にあるグループホームは、産婦人科医院を改築した作りになっているが、リビングに畳を敷き、ソファをたくさん置いて、利用者が思い思いの場所で寛げるよう工夫している。家庭的な雰囲気を、職員一人ひとりが体現することで、心のこもった共用空間になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、ソファを多めに置き、どこでも座れるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みが出来る方に関しては、馴染み物を1点でも居室に設置するように、家族への働きかけを行っている。	居室は、利用者が落ち着いて過ごせる場所になるよう、家族と相談しながら、筆筒や仏壇など馴染みのものを持ち込んでもらい、入居前の暮らしとかけ離れない、暮らしの支援をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特に工夫はしていないが、「何かあったら何でもいいので尋ねて下さいね」と声掛けを行いながら、スタッフとの信頼関係が保たれるよう、日々の支援に取り組むと共に利用者様からのサインを見逃さないように心がけている		